

名古屋市立大学病院

病院長名	松川 則之
所在地	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1
交通案内	地下鉄：桜山駅下車 3 番出口 直結 市バス：「市立大学病院」または「市立大学病院」下車

□ 病院の特徴

当院は800床の病床、32の診療科を有し、地域の中核医療機関として日々安全で開かれた医療を提供しています。がん診療拠点病院や救命救急センターの指定・認定を受け、高度急性期病院・特定機能病院としての役割を果たすよう努めると共に、教育研究機関として優れた医療人の育成に努めています。また、令和3年には東部・西部医療センター、令和5年にはみどり市民・みらい光生病院、令和7年にはリハビリテーション病院が名古屋市立大学の医学部附属病院になり、全国最大規模の大学病院群となりました。令和8年度には救急災害医療センターの開棟を予定しており、より一層進化を続けております。

□ 研修プログラムの特徴

名古屋市立大学医学部病理専門研修プログラムでは毎年4名(3年間で延べ12名)の専攻医を受け入れることが可能です。20施設以上の連携病院との交流により、病理専門医試験受験に必要な数の症例はもちろん、稀な症例を数多く経験することができます。臓器ごとに専門の病理医が指導しますので、より専門性の高い研修を受けることも可能です。また教育・研究機関である大学が基幹施設のため、病理研修と並行して医学研究に携わることもでき、学位(医学博士)の取得も推奨しています。

<研修モデル>

パターンA(基幹施設重点型 + 連携施設1・2群を週1-2日)
パターンA'(基幹施設重点型 + 連携施設1・2群を3年内のいずれかの時期6ヶ月間)
パターンB(連携施設1・2群重点型 + 基幹施設を週1-2日)
パターンB'(連携施設1・2群重点型 + 基幹施設を3年内のいずれかの時期6ヶ月間)
パターンC(1年目、連携施設1・2群に重点を置き、2-3年目、基幹施設に重点を置く)
パターンC'(1-2年目、連携施設1・2群に重点を置き、3年目、基幹施設に重点を置く)
パターンD(1年目、基幹施設に重点を置き、2-3年目、連携施設1・2群に重点を置く)
パターンD'(1-2年目、基幹施設に重点を置き、3年目、連携施設1・2群に重点を置く)

各パターンとも不足分野を補えるよう、状況に応じて柔軟に対応します。

詳細は名古屋市立大学病院総合研修センターHPを参照

http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kensyu-c.dir/specialist_prg/dept.html



□ 主な連携施設

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、名古屋医療センター、公立陶生病院、名古屋掖済会病院、名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、名古屋市立大学医学部附属西部医療センターなど全20余施設

□ メッセージ

病理診断部 部長 高橋 智

病理医とは病変の「最終診断」を行う医師である。

腫瘍を中心とした種々の病変に顕微鏡を通して直接対峙し、組織形態学および分子生物学的な解析によりそれらの表情、性格を読み解いて、病変の「最終診断」を行うことができる唯一の医師です。疾患治療の方向性を決定する「最終診断」を下す極めて重要な診療部門です。



□ 募集要項

※名古屋市立大学病院で勤務する場合

・採用予定人数	数十人	※全領域あわせた人数であり、領域別の詳細の人数は各プログラム責任者と相談の上決定
・給与/月額	357,900円～436,200円	(勤務区分・各診療科の外勤の状況により異なる)
・当直回数/月	4回程度	(診療科により異なる)
・当直料/回	24,000円～34,000円	
・その他	年間有給休暇 20日間、通勤手当、超過勤務手当、共済組合、厚生年金保険、雇用保険、労災保険等あり	
・応募連絡先	担当者	管理課 医療人連携・育成支援係 専攻医募集担当
	電話番号	052-858-7527
	Eメール	s-kensyu@med.nagoya-cu.ac.jp